

テーマ名 地域の教育で育てる自己肯定感と郷土愛

学校名 北海道阿寒高等学校

校長名 橋本 功

担当者 山上 祥吾

1 本校のESDの特徴

本校は全校生徒52名の小規模校である。「どうせ自分なんて」という自己肯定感の低い生徒が多い一方、1学年1クラスで落ち着いた環境の中で学習することができている。幼稚園・小学校・中学校・高等学校の四校連携委員会という組織が設立されており、幼稚園から高等学校までのつながりが深い。また、近隣には生息する野生動物も多いこと、釧路湿原や阿寒・摩周国立公園など雄大な自然や文化を学習する環境が整っていることなどが特徴として挙げられる。そのため、本校では『地域とのつながりに関する学習』『文化・環境に関する学習』などを通して、「自分にもできる」という自己肯定感を高めるとともに、自分の住んでいる地域に愛着を持ちながら地域に貢献できる生徒の育成を目指している。

2 活動・全体計画

	I 取り組み	II 内容	III まとめ
地域とのつながりに関する学習	幼稚園交流	指導案作成	スライドを用いた発表・講評
	地域活性化のイルミネーションづくりに協力（1年有志）	イルミネーションのデザインと作成	「第2回高校生ミーティング」でスライドを用いた発表
文化・環境に関する学習	地域巡検（1・2年）	釧路湿原国立公園 史跡北斗遺跡資料館	各自、レポート作成
	自然体験活動	阿寒湖カヌー体験 ボッケ散策 スキー授業	学んだことの振り返り
	課題研究（3年）	廃油からの石鹸づくり 二オ（タンチョウヅルを呼ぶ餌場）の作成	スライドを作成して成果を発表
	コミュニケーション英語Ⅱ（3年）	SDGsの17の目標から興味あるものを選択して調べ、具体策を提案	スライドを作成して発表
	社会人講話	地元で働く大人の話を聞き地域の魅力を学ぶ	学んだことの振り返り

3 活動事例

町内にある幼稚園から高校までの教師・生徒が連携し、交流をするという機会が複数回

設けられている。幼稚園交流では、実際に園児と高校生が一緒になって遊ぶための指導案の作成を体験し、体験後は交流した感想や反省点をスライドにまとめ、発表した。

地域巡検は、近隣の2つの国立公園である「釧路湿原国立公園」と「阿寒・摩周国立公園」について事前学習と現地見学（体験も含む）を通して自然の雄大さや人々の生活と環境保全、文化の継承などの大切さを学ぶ授業である。地歴・公民科と理科の授業で行う。今年度は、1・2学年が、釧路湿原での自然と人間の関わりのありかたについて学ぶとともに、史跡北斗遺跡資料館で郷土の歴史について学んだ。

3学年選択科目の課題研究の時間には、廃油からの石鹸づくりをするなど、環境に配慮した生活の意義を学び、また、ツルの餌場となる二オを校庭に作成して保護活動に協力、自然と人間の共生について学んだ。

さらに、阿寒町商工会青年部が取り組んでいる「まちなかライトアップ事業」に1年生有志が参加し、町の中心部を照らすイルミネーションのデザインと作成に取り組み、地域の人々と協力し貢献する意義を学んだ。取組の内容は北海道高等学校長協会釧路支部釧路ブロック主催の高校生ミーティングで地域活性化のために何ができるかについて考察したことを発表した。

また、地元で働く方々に「なぜ、阿寒町で働いているのか」などについて講話していただき、地域の魅力や課題について考える機会を持った。



4 成果と課題

授業に参加した結果、昔の人が守ってくれていた自然の中で今の自分が生きているという「人々のつながり」や、学校で学習したことが他教科や生活の中で活用できるという「教科と教科のつながり」などの考えが深まった生徒がいる。また、地域の人たちと交流する中で地域の課題を認識するとともに、他校との交流を通して広い視野でものごとを見ることができるようになった生徒が増えた。学習後の振り返りを丁寧に行えるような時間の設定に取り組んだ結果、学んだことを後の学習に生かすことができる生徒も増えてきたように思う。

積極的に活動に参加し他の生徒をリードすることができるようになった生徒がいる一方、まだまだ活動への参加が消極的になりがちな生徒もいる。自己肯定感が高まっていることが「振り返り」などからも見受けられるが、より自信を持って行動できるよう「全員に成功体験を重ねさせることのできる取組」をしていくことが今後の課題である。他人任せにせず、「自分がやらなければ」という高い自己肯定感を持ち、就職や進学のために一時的に地元を離れても、いつかは戻って活躍できるような郷土愛の強い生徒の育成を今後も目指していきたい。